

神無一族の氾濫

担当 神無七郎

今回の「氾濫」のお題は「逆王手を含む作品」です。フェアリーと逆王手には切っても切れない縁があります。特に協力系のルールでは余詰防止や大駒のピン止めのため、積極的に双玉が利用され、作意や紛れに逆王手が頻繁に登場します。中には「ばか自殺詰」のように自玉を詰めるため、最低1回は逆王手が必要なルールもあります。そこで今回は、逆王手に改めて注目する特集を組んでみました。

【ルール説明】

【強欲】駒を取る着手を優先する。

（補足）合法手の概念は通常通り。合法手（攻方の場合は合法な王手）の中から駒を取る手を優先して選ぶ。

【ばか自殺ステイルメイト】先後協力

して最短手数で攻方をステイルメイト（王手は掛かっていないが合法手のない状態）にする。

【Isardam】同種の敵駒の利きに入る手を禁手とする。

（補足）

- ・成駒と生駒は別種の駒とみなす。
- ・この禁則は王手にも適用される。即ち、玉を取ると同種の敵駒の利きに入る手は王手とみなさない。

【例】Isardam詰 1手

持駒 なし

			飛	王					
			金						
			雀						

（解答）13 飛成迄1手

金で玉を取るの23飛が25飛の利きに入る禁手。従って初形は王手ではありません。そこで13飛成とし、両王手で詰上げます。この手に対し24飛は

受けになりません。成駒と生駒は別種の駒として扱うためです。他に適切な受けもなく、これで詰みとなります。

【出題作についての補足】

①は普通のばか詰。自玉に王手が掛かっているので、初手から逆王手が必要。もちろん詰手順中にも逆王手が数多く登場します。

②は今回の出題で唯一協力系でないルールの作品です。「強欲」の条件以外は普通の詰将棋と同じルール設定で解いてください。

③は受先（受方から指し始める）の作品です。このため「ばか自殺ステイルメイト」なのに手数は奇数手となっています。自由に指せる初手がとても大切です。

④は難しそうですが、詰上りを予想して解図時間を短縮しましょう。持駒の枚数もヒントになります。

⑤は今回の最難問。腰を据えて取り組んでください。

懸賞

▼締切6月末日。呈賞5名。解答は編集部または左記のアドレスへ

E-mail: janacek789@yhb.ne.jp

(メール解答の際は件名に「解答」の語句を入れてください)

▼評価点不要。短評歓迎。1題の正解でも呈賞の対象となるので解けた分だけでも解答を送って下さい。

③神無太郎

Isardamばか自殺スタイルメイト9手

持駒 飛角銀桂

④たくぼん

強欲ばか自殺詰 18手

持駒 金3銀4桂2

①神無三郎

ばか詰 35手

持駒 桂4歩3

⑤神無三郎「剣の舞」

ばか自殺詰 98手

持駒 なし

②上谷直希

強欲詰 11手

持駒 銀2桂